



すき酒造の芋焼酎「伝須木」 鑑評会で3年連続の優等賞

焼酎どころである宮崎・鹿児島・熊本・大分4県の焼酎を対象とした、令和8年度熊本国税局鑑評会で、すき酒造の本格芋焼酎「伝須木（白麹仕込み）」が優等賞を受賞しました。兒玉昇代表取締役は「納めた酒税は地方交付税で地域に還元される。今後も多くの方に飲んでいただき、少しでも市の力になれるよう頑張りたい」と話しました。



伝須木（白麹仕込み）は、地元産ヒノヒカリの麹を和麴で醸したこだわりの本格芋焼酎。白麹の持つ、「甘く・優しく・きれい」な味わいが特長です

子どもたちの笑顔でにぎわう 2026 すきむらんど滝まつり

5月24日、すきむらんどで「2026 すきむらんど滝まつり」が開催されました。須木地区の店舗が10店舗以上集まったマルシェや子どもたちが楽しめる縁日などが催され、県内外から多くの家族連れが来場。毎年恒例の人気企画「魚のつかみ取り」では、子どもたちが夢中で魚を捕まえる姿に笑顔と歓声で大いに会場がにぎわいました。



今年は捕まえた魚をその場で味わうことができる串焼き場を設置。会場では、魚を焼いて、取れたてのおいしさを味わう人の姿が多く見られました

今年で22回目 小林法人会乳がん検診

5月17日、八幡原市民総合センターで小林法人会女性部主催の乳がん検診が実施されました。これは、女性がかかるがんの中で最も多い、乳がんの早期発見・早期治療につなげてほしいと同会が受診費用の一部を助成して毎年開催しているものです。



生きがい学級合同開級式を開催

5月21日、文化会館で生きがい学級合同開級式が開かれました。高齢者が日々充実した生活を送るための生涯学習の場として、定期的に講座を開催している生きがい学級。開級式後には続けて演芸大会が催され、参加者は踊りや歌などを披露し交流を深めました。



須木の子どもたちが高齢者と交流 世代を越えた交流で笑顔あふれる

5月26日、須木中央保育園で園児と須木小学校の1・2年生、須木地区高齢者クラブ会員による交流会が行われました。これは、高齢者との交流を通して地域とのつながりやふるさとへの愛着を深めることを目的に実施されたもの。子どもたちは、クラブ会員に教わりながら菜園づくりに挑戦し、会話を弾ませ、笑顔で交流していました。



同クラブの八重尾輝美さんは「子どもと交流する機会が減ったため、貴重な時間になった。この活動を通して地域活性化につながれば」と話しました

須木小児童がローイングに初挑戦 仲間と力を合わせてオールを漕ぐ

6月16日、小野湖で須木小学校の5・6年生のローイング体験会が行われました。小林秀峰高校ローイング同好会の部員らが指導し、児童たちは雨が降る中でも、息を合わせてオールを漕ぎ、水上スポーツの魅力を体感していました。小野湖では、令和9年に開催される宮崎国スポのカヌー競技とローイング競技が実施されます。



やまもと 山本直政さん（6年）は「初めてローイングを体験してみて、漕ぐのは大変で難しかったけど、楽しかった。また乗ってみたい」と笑顔で話しました

国スポ・障スポ競技拠点の整備へ 小野湖で艇庫建設の安全祈願祭

来年の宮崎国スポ・障スポのカヌー競技・ローイング競技開催に向け、小野湖ウォータースポーツヴィレッジで6月17日、艇庫建設工事の安全祈願祭がありました。堀市長は「この地区の自然あふれる魅力を全国に発信する好機。小野湖周辺の利活用にも大きく寄与する施設となるよう、安全第一で工事してほしい」とあいさつしました。



現地では着々と施設整備が進められており、完成予定は来年3月。建設している艇庫は2階建てで、約100艇の競技艇を収容できる広さです

「地域とのつながり感じて育て」 更生保護女性会が七夕飾りを寄贈

6月、小林地区更生保護女性会が小林市と高原町の小中学校と特別支援学校計26校に七夕飾りを寄贈しました。これは、社会を明るくする運動の一環で同会が毎年実施しているもの。6月16日には小林中学校で寄贈があり、同会の岩下由美会長は「まっすぐで優しい大人に育ててほしいと願いを込めて作りました」と思いを語りました。



七夕飾りを受け取った同校生徒会長の池田優莉さん（3年）は、「七夕飾りを学校に飾り、皆の願いが少しでも叶うとうれしい」と笑顔を見せました

クリーン・アクア・ビバレッジ 子育て支援のため100万円を寄付

6月17日、小林市のミネラルウォーターを全国に販売している、株式会社クリーン・アクア・ビバレッジ（本坊修代表取締役会長）が市に100万円を寄付しました。同社からの寄付は2015年から続き、今年で12回目。本坊会長は「小林のおいしい水を全国に届けられてうれしい。寄付金を市の発展に役立ててほしい」と話しました。



寄付金は「こども応援基金」に積み立てられ、小林の未来を担う子どもたちが健やかに育つための環境づくりの推進や子育て支援の取り組みに活用されます

のじりこぴあは雨でも楽しめる 「ケロケロ梅雨フェスタ」を開催

5月31日、のじりこぴあのメロンドーム内で「ケロケロ梅雨フェスタ」が開かれました。雨の多い梅雨の時期でも子どもたちが楽しめるイベントを開きたいと企画されたもの。ドーム内では、子どもたちに人気のシール交換会が行われたほか、一足早い七夕の短冊づくりなどが催され、会場は来場した子どもたちの笑い声であふれていました。



宮崎市から来場した、高田綾さん・葵さん親子は「梅雨は雨の影響で中止になるものが多いので、雨が降っても安心なイベントはありがたい」と話しました

市民吹奏楽団が音楽の力で聴衆を魅了

6月7日、小林市民吹奏楽団が第21回定期演奏会を開催しました。3部構成のステージで吹奏楽の魅力と迫力を存分に伝えたほか、第2部では「歌の魅力」と題し、オー・ソレ・ミオなどの名曲を披露。美しい音楽が会場全体を包み込み、聴衆を魅了しました。



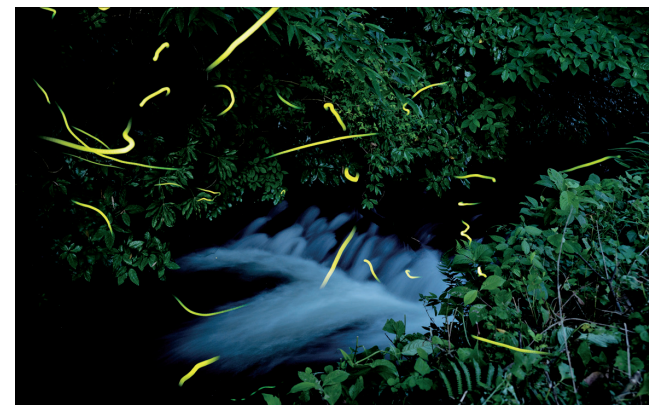
ガールスカウトが体験会を開催

5月24日、ガールスカウト宮崎県第14団主催の体験イベントが、ひいらぎスポーツパークこばやし（総合運動公園）で開催されました。参加した体験入部生は普段から活動しているガールスカウト生と協力してテント建てや小物作りなどに取り組みました。



2年ぶりの開催「ほたるまつり」 幻想的なホタルの飛翔を楽しむ

5月30日、出の山公園周辺で「出の山ほたるまつり2026」（小林まちづくり株式会社主催）が開催されました。当日は、来場客に近くでホタルの飛翔を楽しんでもらおうと、ホタル保護のため普段は立ち入りを禁止している遊歩道を開放。たくさんのゲンジボタルが飛び交う幻想的な風景に来場客からは感嘆の声が上がっていました。



5月27日から6月3日の期間では、ほたるまつり当日以外も出の山公園のホタルを楽しむことができる催し「出の山ほたる week」を初開催しました

阪神・淡路大震災の体験者が講話 栗須小児童が地震への理解深める

6月8日、栗須小学校で5年生を対象に阪神・淡路大震災の講話が行われました。講話では大阪市で被災した板倉敬子さんが発災直後の激しい揺れや、ガラスが散乱した街の様子などを説明。板倉さんは「災害が起きた際の対応を家族と話し合って」と呼びかけ、児童らは地震の恐ろしさや自らできる避難行動について理解を深めました。



講話を聞いた吉田悠希さんは、「亡くなっている人やけがをした人が多かったと聞いて、大変だなと思った。家でも地震への準備をしたい」と話しました